江幡太瓏先生選評



酒 向 酔 華 推選 **酒 向 酔 華** 推選 を作品に仕上がりました。 遅速の変化と言いますが、 遅めの変化と言いますが、 遅めが、ゆっくり書く所が でかかしかった。「ま

飯 山 博 齋 推選 かね。
おかね。
もかれ。
もがあります。どうでしょうかね。
もがあります。どうでしょうかね。
もがあります。どうでしょうかね。
もがあります。どうでしょうかね。
もがあります。どうでしょうかね。
もがあります。どうでしょうかね。
もがあります。どうでしょうかね。
もがれる。
もがれる。
ものは、
ものは、

車 田 菖 圃 推選車 田 菖 圃 推選

並んだのと折角「峰」とした 躍動感がある。細い「の」が 軽快なリズムで線も明るく **見原宏美** 推選

のに下が窮屈になった。

「牧水うた」小さすぎますよ。「わが」が大きかったかな。

32

伊藤漠仙先生選評

ある書。落款若干低い。 て、素晴らしいメリハリの 木簡の特徴をよく捉えてい びやかに引かれた横画等、 る運筆が魅力です。長く伸 リズム感があり、迫力のあ 佐 **藤 敏 江** 推選

ます。一貫性のある運筆が 然な書き振りに好感が持て 変化もあり、品格のある自 れています。潤渇、太細の 参考作品を良く見て書作さ

本 洋 子

体の章法は立派です。右上作者独特の感覚を持ち、全権和城 幸代 推選 上げています。理のない用筆が作品効果を という感じで素敵です。無がりの横画等、これぞ木簡

作品になりました。落款も 麗で、明るく安定感のある です。運腕大きく余白も綺 本文にあっていますね。

かしながら縦の流れが見事を出し、筆意を生を 一本 一本 代 一 推選

久保田淳子先生選評

吉田久実子先生選評



すと深みが増すと う少し渇筆を生か を引き締める。も

て、小さめの文字 きちんと条が通っ が自然でしっかり 津田光穂 丁寧な運筆。連綿 ポイントがつけば 更に奥行きが出る。 れたと察する。広 気持ちよく書作さ 間に留意しつつ、 かで運腕大きく行 筆の穂先がなめら い景の中に、少し 清原亜沙

る作品になった。 かな気持ちにさせ ムとなって、穏や さが心地よいリズ す。手首の柔らか 原帖の雰囲気を醸 紙を捉えて、雅の 艶のある線がよく 村上春風 六段

の中、静かなそし 流れる。秋の空気 練度高い美しい線 枝長真美 れる奥深い魅力あ がリズムに乗って て暖かさも感じら る作になって居る。 師範

成功して居ると感 表現するに適当で あるが、静かさを く纏まって居る。 文字のバランスよ 墨色も作品に影響 潤渇に心を配り、 瀬谷公子

書き出しにやや力 準師 じがするが、浮沈 みなく書かれ、ほ よく、気持ちの淀 を効かせ、リズム がはいり過ぎた感 れて居る。 っとする空気が流

引き立てている。

秋の風情が伝わってくる温工 藤文恵 推選 く二行目の渇筆の流れ美し もりある作。潤渇の配分よ 通して筆者の奏でる音楽が に配したことが作品を更に い。最後の「、」を少し左 聞こえてくる。

静かに納めている。文字を

行目前半大きく弾け最後は に間をとりながら流れ、二 一行目、小さく始まり絶妙

井

己

34

葛西玄涛先生選評

圣夜 13

の柔らかくて強いの柔らかくて強いる。運筆の速度の変化からの潤度の差が、立体感

いのが一番です。

八木澤萬美四段伏井優花初段側筆と直筆の配合素朴な味わいは、
を調整し知的な作個人的には好みで
ところを作るのも
ところを作るのも
ところを作るのも
ところを作るのも
れが波碟やハネに

渡辺泰子

て、その中に直筆硬めの線を多くし

石田一義 この上ない上品さ を感じます。全体 の印象と細部には 差があり魅力的で きがありを別籍 す。細線部の渇筆 と重厚な線の渇筆 とは、よく考えた

光野純子 準六 ゆったりと大らか な動きが随所にあ り、半紙より大き な紙に書いている どです。大きなもどです。大きなもところを味わいは、素朴な味わいは、素朴な味わいは、素朴な味わいは、表朴な味わいは、表朴な味わいは、ます。少しは派手な ところを作るのも ところを作るのも ところを作るのも

今 達也 部分が鋭いのは、 部分が鋭いのは、 部分が鋭いのは、 です。直線の外側 です。直等 です。直等 るからです。直等 るからです。直等

とても上品に見え

しても品格が高く、

ます。優雅です。

す。この線を多用

品を仕上げること 線が、安定した作

重厚で弾力のある 準師

に貢献しておりま

林 溪舟 準七 真面目に取り組んでいる臨書です。 それぞれの文字の います。造形だけいます。造形だけでなく線質を高めてなく線質を高めてなく線質を高めてなく。

を凝縮しておりま

高め、丁寧に文字察して線の密度を原本をしっかり観

福留徳子

七段

中でのアクセントなやかな部分が作す。強靭な線のし

となっています。

高橋芳苑 準四高橋芳苑 準四高橋芳苑 準四 高い臨書に近づい た横綱臨書です。 とにかく安定感が とにかく安定感が といからも愛 される作と思いま す。優しい動きの 準の美しい。 古橋恵美子 八段 古橋恵美子 八段 このような線の作 このような線の作 に飛び込んできま に飛び込んできま す。肩や腕の力を す。肩や腕の力を す。肩や腕の力を

35